

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「学力伸長と進路実現」「心の教育の充実」を教育目標とし、教職員が生徒一人ひとりに寄り添い、丁寧な指導により生徒が学ぶ喜びを経験し、社会に貢献できる力をもった生徒を育てます。学び直しや昼間働くなど様々な条件の中で、「過去は変えられないが未来は変えられる」と強い意志を持ち、夜に学ぶ必要のある生徒を応援します。「三国丘の定時制の生徒なら大丈夫」と学校内外から評価・信頼される学校をめざします。

- 1) 学業と仕事を両立し、休まずに毎日の授業を大切にしている生徒を育てます。
- 2) 地域に信頼され愛される学校の取組を通して、他者を思いやり、ルールを守って主体的に行動ができる生徒を育てます。
- 3) 丁寧な個別指導、キャリア教育を通して、社会に貢献できる生徒を育てます。

2 中期的目標

1 学力伸長と進路実現（本校キャリア教育の推進）

- (1) 学力の定着と伸長を図り、確実な進路実現を果たす。
 - ア 中学校段階以前の欠落部分を補完することが可能な教育課程を編制し、学習到達度の幅が広い教科では習熟度別授業を実施し、モジュールを組み入れ、進路選択時に必要とされる学力を獲得させる。
 - イ ICT 機器などを活用した授業を行い、公開授業や研究授業、授業アンケートを効果的に活用して、組織的な授業力向上にさらに取り組み、学力伸長を図る。
※学校教育自己診断の生徒の授業満足度(平成 26 年度 71%、27 年度 75%、28 年度 71%)を毎年引き上げ、平成 31 年度までには 80%をめざす。
- (2) 卒業後の進路を生徒が各自で思い描けるよう、各年次段階に応じて適切な情報を提供・理解させる。
 - ア 進路指導計画に基づき、各年次に応じて年間数回の進路選択とキャリア能力の育成のためのホームルーム、及び進路説明会を実施する。
 - イ 年次に応じたキャリア教育を実施することで、進路意識の段階的醸成を図る。
- (3) 進路指導體制の強化により、進路実績の向上をめざす。
 - ア 卒業年次には、面談、面接・履歴書指導など生徒個々に合わせた指導體制により、確実な進路実現を図る。
 - イ 3年間または4年間を見通したキャリア教育を推進し、卒業後の進路決定に向けた意識を高める。
※平成 31 年度も学校紹介等による就職と大学・短大等進学の実績（卒業生総数に対する割合）90%以上をめざし、若年無業者 10%未満を維持する。

2 心の教育の充実（モラル教育に重点を置いた教育体制の構築）

- (1) 「社会で正しく生きる」ために、他者の人権を尊重する姿勢を身につけさせ、地域交流を通じて自己有用感を高める。
 - ア 法と社会と自身の関係を理解できるよう、各年次で弁護士等を講師とした法教育を実施する。
 - イ 「社会の一員」としての自覚醸成のため、生徒有志による地域との連携活動に積極的に取り組む。
※平成 31 年度までには地域清掃活動、地元保育園等との地域交流を年間 4 回以上の実施を定着させる。
- (2) 他者も自分も人権を尊重されるべきかけがえのない存在であることに気づかせ、命を大切にすることを最優先とした教育を行なう。
 - ア 「命」等をテーマに人権研修を行う。
※平成 28 年度は SNS 利用や安全防災教育や健康教育のテーマで計 5 回実施した。平成 31 年度までには計 6 回の研修を定着させたい。
- (3) 体育祭や文化祭など各種行事の参加により仲間との交流を深め、豊かな心を育む。
 - ア 総合学習「ふるさと堺探検隊」の参加率（平成 28 年度 75%）を年々上げ、平成 31 年度には 75%以上をめざし、その学びをとおして郷土愛を育む。
 - イ 体育祭、文化祭などの参加率（平成 28 年度 85%）を年々上げ、平成 31 年度には 90%以上をめざし、行事を通して仲間との交流、コミュニケーションの大切さを学び、豊かな心を育む。
- (4) 組織として心の問題に対処できるよう、教育相談体制や個に応じた支援体制の充実を図り、学校への定着と卒業を支援する。
 - ア 教育相談委員会の機能・機動性向上のためにも外部機関との連携を重視し、さらに外部人材の活用を図る。
 - イ 学校の課題解決に向け、教職員の専門性を高めるため、外部機関との連携を図り、教職員向け課題研修を充実させる。
※28 年度は教職員研修を 6 回実施した。外部機関との連携を図り、平成 31 年度には研修年 5 回以上の実施定着を図る。
※最後まであきらめさせない指導により年度末の進級・卒業率（3 年卒業生数＋4 年進級者数／入学者数）を平成 31 年度でも 60%以上を維持する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>[数字⇒数字%は（一昨年度⇒）昨年度⇒今年度の自己診断結果を示している。]</p> <p>【学習指導】授業に係る項目について、教員、生徒（「授業は分かりやすく楽しい」生徒 71%⇒76% 「教え方に工夫をしている先生が多い」生徒 79%⇒82%）は昨年より上昇し、保護者については昨年並の値となった。各教科、教員において学校目標の「わかりやすく楽しい授業」をめざして ICT 機器の活用や教員間の相互授業見学、教科での研究討議等とおし授業改善に取り組んだ成果が出ていると考えられる。</p> <p>次年度以降についても、継続して取り組みを行っていくとともに研究授業については初任者以外の教員についても行うよう検討する。</p> <p>【生徒指導】教員はすべての項目について高い。「先生は生徒の意見を聞いてくれる」（生徒 81%⇒83%）や「相談しやすい」（保護者 79%⇒86%、生徒 63%⇒69%）の項目については、保護者、生徒ともに昨年より上昇している。多様性をもつ生徒に対してきめ細かい指導が行えていることが考えられる。しかし、「学校の指導は納得できる」（保護者 86%⇒79%⇒86%、生徒 77%⇒71%⇒67%）について、生徒は 2 年連続で下降している。昨年度より授業中の携帯電話等の使用禁止や自転車における無灯火運転の禁止、イヤホンの禁止など指導を強化していることが大きな要因と考えられる。指導の際に、生徒が納得して指導が受けられるとともに、教員が共通認識を持って、ぶれない指導が行えるようチームで対応するよう検討する。</p> <p>【学校運営】保護者は、生徒指導(保護者 79%⇒86%)や進路指導(保護者 79%⇒92%)について高評価である。「教育情報の提供」(保護者 79%⇒78%)は例年並みである。しかし、「授業参観や学校行事に参加した」(保護者 37%⇒33%)は昨年並みで低迷している。保護者が学校に來校したくなる仕組みづくりを検討する。</p>	<p>第 1 回（7/22）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ベーシック教養」の取り組みは単位認定もしており良い取り組みだと考える。 ・2 年以降においても取り組んだらよいのではないかと。 ・中学校の進路指導部会で学校紹介をさせていただきようお願いしてはどうか。 ・入学時に保護者を学校に向けさせるかが大きな課題である。生徒向け研修会等に、保護者も参加できるようにしてはどうか。 ・不登校や配慮が必要な生徒からの入学希望のニーズが一定数ある。 <p>第 2 回（10/25）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業について、生徒と先生の関係ができており、きめ細かい指導ができていた。 ・授業について、落ち着いた雰囲気での授業をされているので、中学校教員に学校を知っていただく機会として教員向けの説明会を実施して授業見学をしてはどうか。 ・生徒への配付物で振り仮名をふる配慮をされているのであれば、発達障がいのある生徒の対応として、内容ごとに枠が込みをつける配慮も検討されてはどうか。 ・生徒秋季発表大会の結果や防災教育の支援事業での取り組みなどが報道されることで参加していない生徒にとっても自尊心や所属意識の向上があるのではと考える。 ・デリバリー給食について、とても美味しそうな給食を 1 食 280 円や 356 円程度で食べられるのはとてもよい。 <p>第 3 回（1/27）実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校訪問は、次年度についても続けていただきたい。 ・パイターンシップの取り組みは素晴らしい。学習しながら働きながらさらに対価をいただくことはキャリア教育にとってとても良いことである。 ・パイターンシップについて仲介企業と連携しながら取り組むことは教員の業務軽減にもつながり良い試みと感じる。 ・学校自己診断（生徒）において、「授業は、わかりやすく楽しい。」(肯定的意見：76.2%) 「教え方に工夫をしている先生が多い。」(肯定的意見：82.0%) が高く素晴らしい。 ・生活実態調査では、食事について「決まった時間にとっていない」を選択している生徒が多いため。デリバリー給食は、よい制度であるので多くの生徒が食べられるように努めてほしい。 ・学校自己診断（生徒）において、「学校に行くのが楽しい」(肯定的意見：74.6%) が平成 27 年からであるが微減している。この項目をあげてほしい。

府立三国丘高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力伸長と進路実現 (本校のキャリア教育の確立)	<p>(1) 学力の定着と伸長 ア 研究授業、授業アンケートの効果的活用</p> <p>イ 学ぶ意欲を引き出す ウ わかりやすく楽しい授業をめざして</p> <p>エ 基礎学力の定着・向上</p> <p>(2) 年次段階に応じた適切な進路指導と情報の提供・理解 ア 組織的な進路指導体制 イ キャリア教育の推進</p> <p>(3) 進路実績の向上 ア 広報活動</p> <p>イ 応募前職場見学の実施 ウ 個別指導体制 エ 卒業予定者の若年無業者の減少</p>	<p>(1) ア 授業力向上を図るため、各教科での授業アンケートの活用し、教員間の相互授業見学、研究授業・研究協議の実施。</p> <p>イ 多岐にわたる総合講座等を実施し、自己肯定感を高め、学ぶ意欲を引き出す。 ウ わかりやすく楽しい授業をめざし、ICT 機器等の活用を図り、実技、実習・実験を工夫する。</p> <p>エ 英語・数学での習熟度授業で生徒の基礎学力定着、向上を図る。</p> <p>(2) ア 進路部中心に進路指導体制の全体計画を立案し、進路・担任の合同会議で適宜調整する。 イ 多様な生徒のニーズに応えるべく、進路説明会を「概要説明」→「進路決定に必要な準備」→「志望校の決定や求人票の見方」と段階的・体系的に実施する。 ・進路意識の段階的醸成をめざしたキャリア教育を実施する。</p> <p>(3) ア 積極的な広報活動により、三国丘高等学校定時制の存在をアピールする</p> <p>イ 学校紹介による就職希望者全員に応募前職場見学を実施させる。 ウ 進路面談、面接・履歴書指導を行い、生徒個々に合わせた指導体制を作り進路実績の向上をめざす。 エ ハローワークと連携し、卒業後の若年無業者を減少させる。</p>	<p>(1) ア 経験年数の少ない教員は年1回研究授業。 ・授業アンケートを年2回実施し、後期の評価の平均を前期より向上させる。</p> <p>イ 年度末のアンケートで肯定的評価 70%をめざす。 ウ 生徒の自己診断「授業はわかりやすく楽しい」の肯定率(H28年度71%)を75%に。 ・自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定率(H28年度79%)を80%に。</p> <p>エ 基礎学力診断テスト(1年英・数・国)の4月から2月での伸長度35%増とする。</p> <p>(2) ア 進路・担任合同会議を定期的(年間3回以上)に行う。 イ 1・2年次生への進路説明会を年3回、卒業学年への進路説明会を年2回実施。 ・各学年に応じたキャリア教育を年3回実施。</p> <p>(3) ア 卒業生の進路先などの毎年新たな広報用資料を制作。新たな企業開拓、学校説明に活用。 ・学校HPの月2回の更新。 イ 就職希望者全員に応募前職場見学を実施。 ウ 就職・進学希望者全員への面談の実施。 ・履歴書講座の実施。 エ 若年無業者(進学・就職等を希望しない生徒を除く)の割合(H28年度0%)10%未満を維持。</p>	<p>(1) ア 初任者2名について公開研究授業を6月と11月の2回実施した。他校からの参加者、多くの教員からの授業評価をもらい授業力向上に繋がった。(◎) ・評価平均は前後期で変化はなかった(前期3.27、後期3.26)。(△)ただし、前年同時期のアンケート(前期3.14後期3.20)に対しては上回り、前年度より授業改善が図られていることがわかる。(○) イ 評価の肯定率は91%であった。各教員が工夫をして分かりやすく楽しい授業を実践している。(◎) ウ 自己診断の肯定率は76.2%で5.4ポイント上昇。(○)各教員がわかりやすく楽しい授業を実践してくれている。 ・自己診断の肯定率は82.0%で3.2ポイント上昇。(○)。6年連続改善しており、ICT機器の活用をほぼ全員の教員が実践し、生徒の理解を高めている。(◎) エ 英語184%増、数学26%増、国語38%増であった。英語においては、大幅な伸びであった。(○)</p> <p>(2) ア 進路・担任合同会議を6回実施。生徒の情報共有ができた。(◎) イ 1・2年次生には6月・12月・2月に実施。卒業学年には4月と7月に実施。各説明会が生徒にとって進路を意識させる良いきっかけになった。(○) ・6月に1回目実施(1・2年次生:進路指導の概要、3・4年次生:求人票の見方)。12月に2回目実施(1・2年次生:企業の方の講話、3・4年次生:労働条件セミナー)。1月に3回目実施(1年次生:卒業生講話、2年次生:マネー講座、3・4年次生:会社社長の講話)。各学年の課題に応じた内容の取り組みができた。(○)</p> <p>(3) ア 学校パンフレットを改訂し、カラー版の挟み込みチラシ新規に作成。中学校訪問、学校説明会等で活用。企業開拓用にハローワーク堺に学校パンフレットを50部設置。(◎) ・学校HPを月2回以上適時更新。(○)新規にLINE@を活用し、即時性の高い学校情報を保護者、生徒に情報提供している。(◎) イ 就職希望者全員が応募前職場見学に参加した(延べ18名の生徒が34社に見学)。複数社に行き、比較検討ができた。(◎) ウ 就職・進学希望者全員への面談を実施。個々の事情に応じた相談や指導ができた。(○) ・7月に実施。生徒の意欲向上に効果があった。(○) エ 若年無業者率は0%である。3月1日現在、就職希望1名、進学希望2名は活動中である。(○)</p>

府立三国丘高等学校

<p>2 心の教育の充実 (モラル教育に重点を置いた教育体制の構築)</p>	<p>(1) 法令を守り、他者の人権を尊重する姿勢の育成 ア 法教育</p> <p>イ 生徒会中心にボランティア活動の実施</p> <p>ウ 地域交流の推進</p> <p>(2) 人命尊重の教育の推進 ア 「命」等をテーマとする研修</p> <p>イ 安全教育の実施</p> <p>ウ 健康への関心を高める</p> <p>エ 美化意識を高める</p> <p>オ 健康診断受検率の向上 カ う歯0をめざす</p> <p>(3) 各種行事の参加により自尊心を高める ア 郷土愛を育む イ 仲間との交流により豊かな心を育む</p> <p>(4) 教育相談の充実と学校への定着、進級・卒業の支援 ア 三国丘(定)の存在を地域にアピール イ 支援を必要とする生徒の情報共有 ウ 外部機関との連携強化</p> <p>エ 日本語支援の必要な生徒の困り感を解消 オ 相談機関との連携</p> <p>カ 学校課題解決に向けて</p> <p>キ 相談しやすい環境づくり</p> <p>ク 進級・卒業率向上をめざして</p>	<p>(1) ア・各年次で弁護士等を講師とした法教育を実施。</p> <p>イ・生徒会中心に、地域との連携を踏まえ、地域清掃ボランティア活動を行う。</p> <p>ウ・地元保育園との交流活動を計画・実施。</p> <p>(2) ア・人権教育推進委員会を核に「命」等をテーマに研修を行う。</p> <p>イ・生徒指導部中心に、安全教育を計画的に進める。</p> <p>ウ・生徒の健康への関心を高めるため、生徒保健委員会を開催する。</p> <p>エ・清掃活動を通して、生徒の美化意識を高める。</p> <p>オ・病の早期発見・早期治療をめざすため、健康診断受検率を上げる。 カ・う歯0をめざし、ブラッシング講習を実施。</p> <p>(3) ア・総合学習「ふるさと探検隊」を通じて郷土愛を育み、地域を知る。</p> <p>イ・体育祭、文化祭などの行事を通して仲間との交流、コミュニケーションの大切さを学び、豊かな心を育む。</p> <p>(4) ア・引きこもり、不登校、ネグレクトなど支援を必要とする生徒に居場所・三国丘(定)の存在を地域にアピールすべく広報を強化。 イ・支援を必要とする生徒の情報を共有し情報交換を行うため、SCを活用し、教育相談委員会を定例で開催する。 ウ・帝塚山学院大学大学院との連携し、ハートケアサポーター機能を高める。</p> <p>エ・日本語支援の必要な生徒の困り感を低減する。</p> <p>オ・外部の相談機関等との連携を継続強化する。</p> <p>カ・本校が直面する学校課題解決に向け、教職員向け研修を実施する。</p> <p>キ・担任、SC、教育相談委員会の連携システムを強化確立し、生徒が相談しやすい環境づくりを行う。</p> <p>ク・最後まであきらめさせない個々の生徒への指導・支援により、学校への定着を図り、進級・卒業を支援する。</p>	<p>(1) ア・各年次に応じて法教育研修を実施し、生徒の事後アンケートで肯定的評価80%めざす。</p> <p>イ・生徒会中心に、地域清掃ボランティアの生徒参加者1日10名をめざし、年2回実施。</p> <p>ウ・地元の保育園との交流を年2回実施。</p> <p>(2) ア・「命」等をテーマに研修会を複数回実施。SNS関連の情報モラルの講習会は必ず行う。</p> <p>イ・薬物乱用防止、交通安全講習等必要なテーマで研修を計画的に行う。生徒アンケートの肯定的評価80%以上めざす。</p> <p>ウ・生徒保健委員会を学校行事時に年4回実施を維持。</p> <p>エ・年間2回の大清掃</p> <p>オ・健康診断の受検率の90%以上を維持する。</p> <p>カ・歯科医、歯科衛生士によるブラッシング講習を実施し、生徒の治療への興味関心を高め、治療完了者(H28年度61%)60%以上をめざす。</p> <p>(3) ア・生徒の行事参加率(H27年度75%)の70%以上の維持をめざす。</p> <p>イ・生徒の行事参加率(H28年度体育祭82%、文化祭91%)の80%以上の維持をめざす。</p> <p>・生徒の自己診断「体育祭は楽しく行えるよう工夫されている」(H28年度76%)「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」(H28年度80%)の肯定率80%以上をめざす。</p> <p>(4) ア・教員全体で中学校訪問を行い、三国丘(定)の面倒見の良さをアピールする。</p> <p>イ・教育相談委員会を月1回以上開催。</p> <p>ウ・臨床心理士候補の大学院生が教育相談のサポーターとして年30回来校し生徒支援にあたる。</p> <p>エ・日本語支援の教育活動をすすめて、当該生徒の進級・卒業をめざす。</p> <p>オ・外部機関との連携を必要に応じ実施。</p> <p>カ・教職員向け研修を年間3回以上実施。</p> <p>キ・生徒の自己診断「担任以外で保健室・相談室に相談できる先生がいる」の肯定率(H28年度63%)を65%以上めざす。</p> <p>ク・年度末の進級・卒業率(3年卒業生数+4年進級者数/入学者数)(平成28年度62%)60%以上の維持。</p>	<p>(1) ア・1月に6名の弁護士を招聘して法教育授業、アルバイトなどの労働問題、架空請求や送り付け商法などの消費者問題をテーマに実施。肯定的評価88%。弁護士により生徒の評価にバラつきがあり、弁護士の選定は次年度の課題。(○)</p> <p>イ・前期はのべ20名参加。後期はのべ13名参加。ボランティア参加により生徒の自己有用感が高まった。(○)</p> <p>・放送研究会(部活動)の3名が3泊4日で熊本地震のボランティアを実施し、地元メディアにも取り上げられ、生徒の自己肯定感、有用感向上につながった。(◎)</p> <p>ウ・7月地元の保育園を訪問して園児との交流に5名参加。1月の交流に3名参加。保育士として、また次世代の親としての意識を高めた。(○)</p> <p>(2) ア・①5月NTTドコモから講師を招聘し情報モラルの講習会を実施。事後生徒アンケートで肯定的評価が100%。②10月に大阪市鶴橋で韓国文化を中心とした人権FWを実施、参加生徒17名。③12月1年LGBT(外部講師)、2年東日本大震災(本校教員)、3・4年難民ワークショップ(本校教員)により人権授業を実施。④12月15日大阪健康安全基盤研究所及び堺保健センターから講師を招聘し、「性感染症」及び「感染症と歯科実習」について希望別に健康教育を実施。事後生徒アンケートの肯定的評価がそれぞれ91%と95%(◎)</p> <p>イ・7月堺警察署より招聘した講師による交通安全講習を実施。事後生徒アンケートで肯定的評価が95.8%(◎)</p> <p>・1月に本校学校薬剤師による薬物乱用防止教育を実施、事後アンケートで「薬物にかかわらない気持ちになった」生徒が85%。(○)</p> <p>ウ・6回実施(5月25日、6月2日、9月4日、9月8日、11月2日、2月7日に実施。)。行事ごとのゴミ箱作り等の活動により美化意識を高めた。(○)</p> <p>エ・6月、11月に実施。学校衛生環境への意識付けを行った(○)。</p> <p>オ・健康診断の受検率95.8%に到達した(◎)。未受検者への再三の呼び出しなど今後も丁寧な指導を行う。</p> <p>カ・11月に実施、う歯のない生徒と治療完了者は65.6%となり、生徒の興味関心を高めた(○)。</p> <p>(3) ア・台風の影響で土曜日の雨の日にもかかわらず生徒の参加率は79%になり、中期的目標にも到達した。(○)</p> <p>イ・体育祭参加率85.5%、新入生歓迎会参加率82.6%。文化祭参加率87.1%。今年度も高い参加率で行事が活性化した。(○)</p> <p>・自己診断の肯定率は「体育祭は～」82.0%で5.9ポイント上昇。「文化祭は～」86.1%で6.5ポイント上昇し、目標を大きく上回った。(◎)今後も生徒会を中心に工夫していきたい。</p> <p>(4) ア・全教員で71校もの中学校訪問を行い、本校の良さをアピールした。(◎)</p> <p>イ・月1回実施。9月はSCと教員の勉強会を加え月2回実施。(○)</p> <p>ウ・帝塚山学院大学から大学院生が67回来校した。生徒支援を教育相談と連携して行っていた。(◎)</p> <p>エ・日本語以外を母語とする2年女生徒に対し、国語と社会で抽出授業。各教科丁寧な指導実施。(○)明るく前向きに学校生活に取り組んでいる。3年に進級した。</p> <p>オ・2名について外部機関と連携を行った。堺市が実施するケースワーカー研究協議会に参加し地域との連携を行った。(○)</p> <p>カ・教員向け研修「景気動向と学卒求人」、「保護者にやってほしいと思う子どもへの関わり方」、「障害を理由とする差別解消の推進に関する法律と個別の支援計画について」、「学校での不登校対応研修」、「生活保護制度の概要及び進路指導にかかわる問題」、「ヘイトスピーチ解消法施行と教育課題」と年間6回行い、現在の諸課題の認識とその解決方法、そして教員としての専門性を高めた。中期目標も達成した。(◎)</p> <p>キ・自己診断の肯定率は68.9%で6.1%ポイント上昇。(○)一人ひとりに寄りそう指導が理解され、4年連続上昇。(◎)</p> <p>ク・年度末の進級・卒業率83%(43/52)であった。なお、3年は、全員進級又は卒業した。(◎)</p>
--	---	--	--	--